

(別紙2)

令和 8 年 1 月 30 日

## モニター評価報告書

### 1. タイトル

「誰が」「何を」話しているかをリアルタイムに可視化するサービスVUEVO(ビューボ)によるインクルーシブコミュニケーションの実証

### 2. 報告書の作成者

所属・部署	氏名
View of Voice事業部	川田 夏希
連絡先(住所、電話、メールアドレス)	
〒104-0028 東京都中央区八重洲二丁目2番1号 東京ミッドタウン八重洲 八重洲セントラルタワー 8階 電話番号:090-8389-3439 E-mail: <a href="mailto:natsuki.kawada@pixiedusttech.com">natsuki.kawada@pixiedusttech.com</a>	

### 3. 製品概要

①カテゴリ	コミュニケーション支援サービス
②製品名	VUEVO(ビューボ)
③型番	PDVM0001
④製品コード	-
⑤希望小売価格	オープン
機器の特徴	
⑥主な対象者	聴覚障害者
⑦利用場面	会議、雑談
⑧目的	会議や雑談など複数人の会話における会話の方向と会話内容をリアルタイムに可視化
⑨利用安全の対策(リスクアセスメント)	
情報セキュリティマネジメントシステムISO27001の認証及び、品質管理システムQMS ISO9001を取得済。 メーカー推奨の利用ができるよう対象者には事前に使用方法のレクチャーを実施し、期間中は定期的に利用に関するサポートを行う。	

### 4. 評価結果 ※応募は予定で差支えありません

● 実施機関	株式会社竹中工務店	
②実施期間	令和 7年 11月 10日 ~ 令和 8年 1月 16日(43日間)	
③評価に係った職種等	言語聴覚士	
④評価結果	(1)対象者	①聴覚障害社員、②①の上司・同僚

	(2)人数	①4名、②5名の計9名
	(3)手法	<p>Step 0:導入準備・事前評価</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象者へのモニター評価説明と個人情報の取り扱いに関する同意の取得</li> <li>2. 属性調査、評価項目の事前評価(項目は後述)</li> </ol> <p>Step 1:機器利用・新規UIの設計</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3. 会議(定例、アドホック)の場面でVUEVOを使用(適宜サービス利用をサポート)</li> <li>4. 新規開発予定のユーザーインターフェースの設計</li> </ol> <p>Step 2:事後評価</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>5. インタビュー／アンケートによる評価項目の事後評価</li> <li>6. 新規開発予定のユーザーインターフェースの有効性ヒアリング</li> </ol> <p>※属性調査:難聴の程度、仕事で最も使うコミュニケーション手段(聴覚活用、読唇、筆談、手話、他社サービス)、会議実施回数  ※評価項目:会議における当事者による話者識別度の10段階評価、会話理解度(1対1、1対多)、会議における発言回数、会議において当事者が持つ会話の不安感、会議内容把握にかかった時間、会議において周囲が認識のずれを感じた回数、会議参加/招集率、自席業務中における周囲の会話から得られる情報量の10段階評価</p>

	(4) 結果	<p>1 <b>会議における当事者による話者識別度の10段階評価</b> 話者識別度は、モニター本人の感覚では2.2(9.5-7.3)pt(30.1%)増加、上司/同僚の視点でも1.2(7.2-6.0)pt(20.0%)増加した</p> <p>2 <b>会話理解度</b> 話者識別度は、会議において、モニター本人の感覚では1.7(9.0-7.3)pt(23.3%)増加、上司/同僚の視点でも1.8(7.4-5.6)pt(32.1%)増加した 会議以外の複数人の会話においても、モニター本人の感覚では1.8(8.8-7.0)pt(25.7%)増加、上司/同僚の視点でも1.6(7.4-5.8)pt(27.6%)増加した</p> <p>3 <b>会議における発言回数</b> 発言回数は、モニター本人の感覚では1.6(3.6-2.0)回(80.0%)増加、上司/同僚の視点でも0.3(2.2-1.9)回(15.8%)増加した</p> <p>4 <b>会議において当事者が持つ会話の不安感の10段階評価</b> 不安感は、変化がなかった(2.8→2.8)</p> <p>5 <b>会議内容把握にかかった時間</b> 内容把握にかかる時間は、モニター本人の感覚では14.5(17.0-2.5)分(85.3%)減少、上司/同僚の視点でも5.7(8.0-1.3)分(83.8%)減少した</p> <p>6 <b>会議において周囲が認識のずれを感じた回数</b> 認識のずれを感じる回数は、モニター本人の感覚では0.5(2.8-2.3)回(21.7%)減少、上司/同僚の視点では変化がなかった(0.7→0.7)</p> <p>7 <b>自席業務中における周囲の会話から得られる情報量の10段階評価</b> 周囲からの情報量は、モニター本人の感覚では3.3(6.3-3.0)pt(90.9%)増加した</p> <p>8 <b>会議参加/招集率</b> 竹中工務店では、聴覚障害者に配慮された環境が一定整っており、全ての必要な会議には聴覚障害者も既に参加されていた 一方で、大人数・正式な会議だけでなく、小規模な打合せやその場の会話でも使える可能性が見えてきた</p> <p>9 <b>聴覚障害者の業務への貢献度合いの向上</b> 話者の方向が分かることや、少ない誤変換かつ変換スピードそのものの向上により、会話の流れを追い続けやすくなり、内容理解が早まった 聞き取りの負担や会議後の確認作業が減少し、業務内容そのものを考える時間が増えた 接続が安定した環境では、ワーキングやディスカッションへの自由な参加が可能となり、業務への主体的な関与やモチベーション向上に繋がる 聴者側にとっても、近くに座る聴覚障害者へ確認したい内容を、Teamsチャットよりも迅速に共有でき、コミュニケーションのラグが軽減された 理解スピードの向上を受け、聴者側として今までと違う仕事(リーダーシップを発揮するような仕事)を任せたいと考えるようになった</p> <p>10 <b>情報を自力で取得・理解できる安心感が向上し、聴覚障害社員の発言量が増加</b> 会議内容の理解度が従来の60~70%程度から、条件が整った場合には80~90%程度まで向上し、「内容が合っているか不安で発言できない」状態が軽減された 話者や発話状況を瞬時に把握できるようになったことで、正しく情報を理解できているという実感が高まり、自信を持って意見を出せるようになった結果、挙手や発言など自発的な発信が増えた 会議後や会議中の聞き取りや内容確認に要していた負担が軽減されたことで、考える余裕が生まれ、発言のレパートリーが増えたり、チャットへの書き込み速度が向上した 会議に限らず、ちょっとした会話や周囲の発言から気づきを得て、自然にディスカッションに繋がる可能性を感じている 聴覚障害者本人と目が合うようになり、コミュニケーションの質が向上した</p> <p>11 <b>健聴者を含むチーム全員が「平等な情報共有」できる環境を実現</b> 誰が、どの方向から発話しているかが可視化されることで、聴覚障害者・聴者を問わず会話内容を同じタイミングで把握できる環境が整った。2人同時発話や周囲の雑音がある状況でも注目すべき発言が分かり、会議への参加感が高まった これまで必要だった全員への専用アプリ導入や、発話開始・終了操作などの負担がなくなり、新しいメンバーや端末環境に依存せず自然に会話を開始できる点が、心理的な負担軽減に繋がった</p>
--	--------	---

		<p>言葉を拾う精度や遠方の音声の認識性能により、資料説明だけでなく雑談や補足発言、背面で行われている会話、館内放送など、これまで把握が難しかった情報にも触れられるようになったことで、業務全体や職場環境への理解が深まった</p> <p>Teamsのトランスクリプトでは把握しづらかったイントネーションや話者の切り替わり、後から見返せる議事録機能が、理解の補助として有効に機能しており、会議後に周囲へ確認する必要が減った</p> <p>こうした変化を通じて、「同じ土俵に立って、同じスピードで仕事ができている」という感覚が生まれ、自信や主体性の向上に繋がった。また、雑談や非公式なコミュニケーション、D&amp;I活動への参加意欲が高まるなど、チーム全体にも前向きな影響を与えている</p> <p><b>12 導入・操作がスムーズ</b></p> <p>持ち運びが容易で、操作自体も直感的で分かりやすく、初めての利用でも大きくつまづくことは少ない</p> <p>一方で、会議前の準備（電源状態の確認、起動・接続、マイクの置き方）は慣れが必要であり、起動や接続に数分を要する場合は、実務での利用が難しいと感じる場面があった。即時起動や安定接続が、業務利用における重要な前提条件として挙げられた</p> <p>操作自体は難しくないものの、ON/OFF状態の視覚的な分かりづらさや、参加者の名前を毎回手動で入力する必要がある点は、改善を望む意見があった</p> <p>集音性能が高い一方で、エコーや周囲の機器音を拾ってしまう場合があり、マイク周辺に障害物を置かない、会議室環境の工夫など運用上の配慮が必要とされた</p> <p>iPhoneとマイクを常時携帯して利用することが難しいため、立ち話や突発的な会話よりも、事前に設定された会議での利用に適している。一方で、「朝来たら立ち上げておく」などの運用を行うことで、機器の立ち上げや会議開始が非常にスムーズだったという声もあり、設定や環境を整えば継続的な活用が期待できる</p>
--	--	--

**⑤モニター評価から得られた効果**

**VUEVOは内容や話者に関して得られる情報量を増やし、業務参加・貢献度を高めるツールとして機能していた**

上記結果の通り、以下の観点全体において就労の面から効果がみられた。

- 会議参加／招集率
- 聴覚障害者の業務への貢献度合いの向上
- 情報を自力で取得・理解できる安心感が向上し、聴覚障害社員の発言量が増加
- 健聴者を含むチーム全員が「平等な情報共有」できる環境を実現

他以下においても知見が得られた。

1. 会議においては、VUEVOを既存のTeams等の代替として用いるのではなく、現時点では話者把握や周囲状況の可視化を補完するツールとして位置づけ、Teams等と併用する使い分けが有効である
2. 一方、VUEVOは「配慮されるためのツール」ではなく、「話者や発話状況を全員が同時に確認するツール」として使用されることで、心理面・機能面の両面において、より平等な情報共有に近づくと考えられる。そのため、聴者を含めた全会議参加者の使用を周知徹底する必要があった
3. 想定していなかった使い方をすることで、接続面等で不具合が出たケースがあったため、Wifi環境、ID発行やあらゆる場面を想定した準備を、余裕をもって行うべきであった

**⑥期間中に発生した事故・ヒヤリハット**

- 1 モニター期間中、人身事故や安全上の重大な事故は発生していない
- 2 一部のモニターから、接続が途切れたことに気づかず使用できていなかった場面があったとの報告があり、一時的に情報取得ができていない状態に陥った事例が確認された

**⑦期間中に発生した機器等の不具合や故障、修理や調整等**

- 3 モニター期間中、機器の物理的な破損・故障・修理対応等は発生していない

**⑧所感(使用にあたっての意見・感想)※モニター実施機関コメント**

4 当事者の方から当サービスの試行の要望があり今回モニターに協力させていただきました。当事者の方が会議で課題に感じていた「誰が話しているか口元を見て探していた」状況の解決案として、音が発せられている方向を見える化できる当サービスに期待をされていたようです。実際モニターさせていただき、使用条件を整えることで、方向をきちんと認識できていると感じました。また、音声認識の性能も高く誤字も少ない、複数名の発言を個別認識できる、AI議事録も概ね合っており当事者、当事者の周りの方のご協力があれば、業務上活用していけると感じています。更なる音声認識の性能の向上はもちろん、使用シーンの拡大など引き続きサービスの向上を期待しております。

#### 5.モニター評価後の特記事項・連絡事項

今回検証したサービスがSaaSであったこともあり、ネットワークやセキュリティなどモニター企業様との間で調整が必要な事が多く、モニター実施期間の中で就業環境に即したより発展的な活用などはしきれなかった。就労支援という観点でいくと、更なる活用や長期的な効果についてはもっと長い期間の中で評価していく必要があると考えられた。

(別紙3)

#### 補助事業に要した実支出額明細

##### 1. 交付決定額

金 5,508 千円(A) ※千円未満は切り捨てた金額としてください。